

実質化された人・農地プラン

注:本様式は参考ですので、地域の話合いの結果に応じて、積極的に記載する項目を追加してください。

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
小郡市	小郡地区(小郡)	令和4年2月28日	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	44.4ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	25.6ha
③地区内における75才以上の農業者の耕作面積の合計	7.8ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	5.5ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	1.4ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	0ha
(備考)	

- 注1:③の「〇才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。
注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。
注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。
注4:プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

- ・開発関係で農地が減少している。
- ・新たに開発の話があがっており、農地の集約に支障をきたしている。
- ・主に1人の担い手に集積しているため、担い手がけがや病気の時に農地が荒廃する恐れがある。
- ・開発の話がある以上、外部からの新規就農も難しい。

注:「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

- ・小郡集落を中心に営農を行っている認定農業者を中心に集約化を図る。
- ・観光農園等で付加価値を高め、新規就農者の受け入れも視野に入れる。